

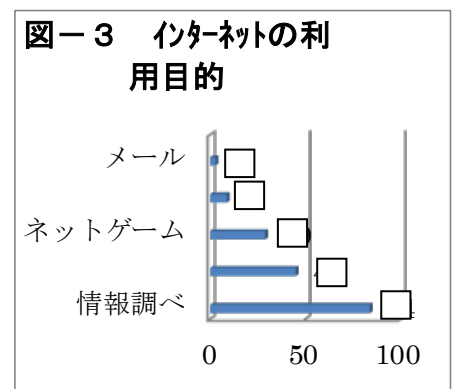
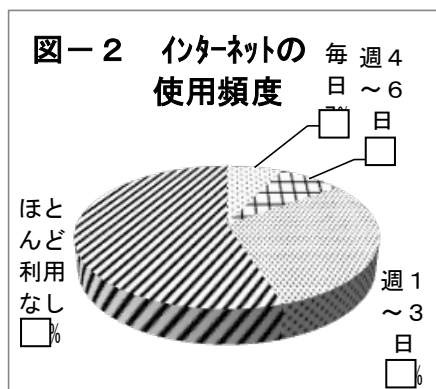
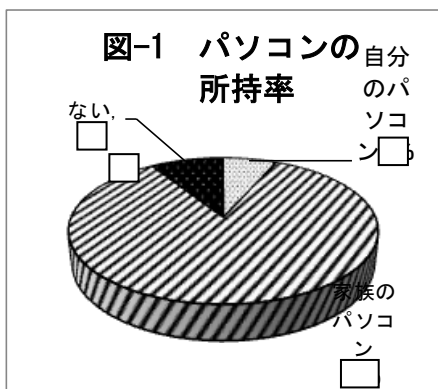
# 第6学年 情報モラル教育学習指導案

## 1 指導観

○ 本学年の児童に「パソコンやケータイに関する実態アンケート」を実施したところ、以下のよう  
なことがわかった。

まず、パソコンの所持に関しては、図-1のように、自分のパソコンもしくは家族のパソコンを  
所持している児童が %おり、多くの児童がパソコンを扱える環境にあると言える。また、図-  
2からインターネットの使用頻度については、 %の児童はインターネットを利用していないもの  
の、 %の児童は利用しており、中には毎日利用している児童がいることも分かった。

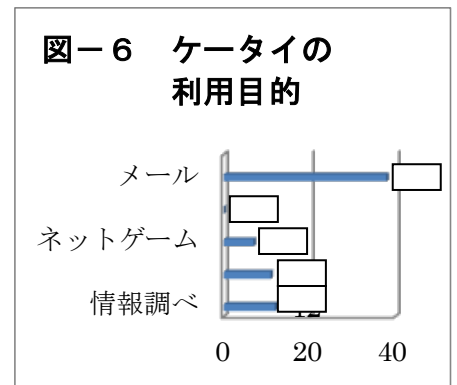
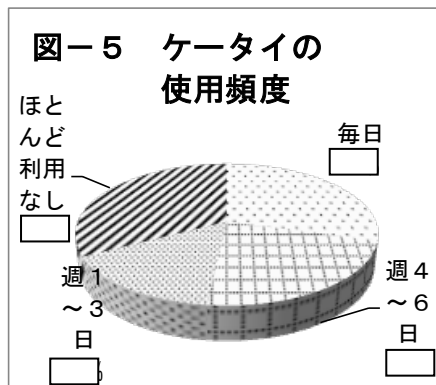
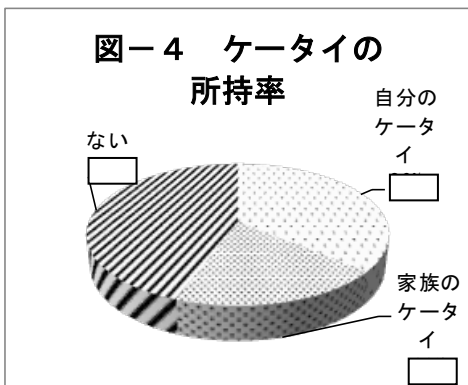
さらに、図-3から、インターネットの利用目的としては、情報調べ、動画・音楽、ゲームの順  
に多く、中には、少数ではあるが「掲示板・ブログ」や「メール」も利用している児童もいること  
がわかった。



次に、ケータイの所持に関しては、図-4のように、自分のケータイ %、家族のケータイ %  
の合計 %の児童がケータイを利用していることがわかった。また、図-5のケータイの使用頻度  
では、毎日使用している児童が %、週4~6日が %と、かなり頻繁に使用している状況が  
ある。

さらに、図-6のケータイの利用目的では、電話機能以外のものとして、メールと答えた児童が  
大変多かった。

このように、本学年の児童はパソコンやケータイが家庭生活の中で関わりの深いものになってい  
ることがわかった。しかしながら、情報調べとしての利用だけでなく、メール、掲示板・ブログで  
の利用もあることから、情報モラルについての知識理解も必要であると思われる。



- 本教材は、私たちの生活では情報を自由に発信したり、受信したりすることができ、そのようなインターネットを介してコミュニケーションをする機会が多くあることを知るとともに、それらを利用する場合には、自分を律する気持ちが大切であることを理解し、責任ある行動をしようとする態度を育てるものである。

本学年の児童は、パソコンやケータイの普及によって、まだ少数ではあるが、メールや掲示板・ブログ等を利用している実態がある。そして、今後は、チャット等のコミュニケーション手段も利用していく機会もあるかもしれない。

しかし、そのように誰でも自由に利用できるからこそ、そこには互いを尊重し合い、社会に合った規範を自分自身で立てて行動することが大切である。インターネットは匿名性が強く現れ、その結果、無責任さを助長し、他者への誹謗中傷を引き起こしやすい。無責任で勝手な行動は、社会生活を不安なものにすることを理解させていきたい。

そこで、本教材「インターネットの落とし穴」では、チャットでクラスの友達の不満を書き込んだ直美と不満を書き込まれた幸子とのやりとりを通して、何がいけなかったのかを考えさせることで、情報を発信することは自由であるが、そこには責任ある行動が必要であるという情報発信者としての情報モラルを身に付ける上で大変意義深いと考える。

- 情報モラルの指導にあたっては、情報モラル指導カリキュラム表に準じて作成した「情報モラルカリキュラム（試案）」に沿って、計画的に指導していく。

また、本時では、まだ比較的少数ではあるが、今後、中学校にむけて掲示板やチャット等のコミュニケーションサイトの利用が増えていくことが考えられるため、掲示板やチャットについて取り上げて指導していく。

道徳副読本より「インターネットの落とし穴」という資料を通して、情報モラルの根本とも言える「心的モラル」を考えさせるとともに、デジタル教材を用いて、掲示板やチャットの書き込みについての「知的モラル」の両面から指導を行っていきたい。

また、本時では、児童の興味関心を高め、効果的に指導を行うため、電子黒板の活用をしていく。

まず、導入段階においては、「チャット」の経験がない児童が多いため、動画を用い、「チャット」について知らせ、本時のめあてを確認していく。

次に、展開段階では、資料を読み、チャットに書き込んだ直美の気持ちに焦点化することにより、情報発信者の心について考えさせていきたい。

また、情報モラル指導としては、デジタル教材（Benesse 情報モラル Navi）を活用し、何が問題なのかを考えさせていきたい。その際、電子黒板に直接書き込みをさせることによって、興味関心を高めたり、保存機能により振り返り時に再現させたりして活用していく。「書き込みのポイント」としては、4点について「教えること」として指導していく。

終末段階では、今後、チャットや掲示板等を利用していく時にどのようにしなければならないかについてグループで考えさせ発表させていく。その時、書き込みのポイントなどの『知的モラル』だけでなく、『心的モラル』として、「相手を思いやる心」が「責任ある心」として押さえていきたい。

## 2 主題名 「責任をもって」（高1－（3）自由、自律・責任）

資料名 「インターネットの落とし穴」 道徳6年 きみがいちばんひかるとき

## 3 本時

### （1）道徳のねらい

- 自由には、自分を律する気持ちが大切であることを理解し、相手意識をもった責任ある行動をしようとする態度を育てる。



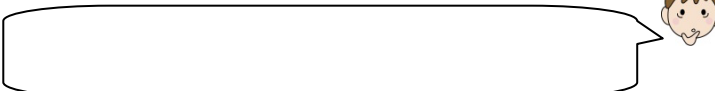



### （2）情報モラル指導のねらい

- チャットや掲示板を利用する場合のルールやマナーを知り、それに反する行動を行わない態度を育てる。（C3－1）

### （3）準備

パソコン、電子黒板（ナリカ）、情報モラルデジタル教材、学習プリント

(4) 展開

学習活動・内容	指導上の留意点 (○), 電子黒板の活用 (★)	配時
<p>1 「チャット」について知り, 本時めあてを確認する。</p>  <p>「チャット」という言葉を知っていますか?</p> <p>○ 動画「チャットとは」を視聴し, チャットについて知る。</p> <p>めあて 責任ある心について考えよう。</p>	<p>○ 「チャット」の経験は少ない児童が多いため, 動画を視聴させ, 本時学習内容を知らせる。</p> <p>★ 電子黒板に動画を映す。(動画提示機能, 音声機能)</p>	<p>0</p> <p>5</p>
<p>2 資料「インターネットの落とし穴」を読み, 直美の気持ちについて話し合う。</p> <p>(1) 資料の前半を読み, 「チャット」で不満を話した時, 直美はどんな気持ちだったのか話し合う。</p>  <p>(2) 資料の後半を読み, 明日は謝ろうと決心した直美は, どんなことに気づいたのか話し合う。</p> 	<p>○ 書き込んだ直美の心情の変化を焦点化して考えさせるため, 直美の気持ちを話し合わせる。</p> <p>★ 電子黒板に本文と挿絵を提示し, ペン機能でラインを引く。(書き込み機能)</p>	<p>20</p>
<p>(3) デジタル教材を使って, 掲示板への参加のマナーについて考える。</p>  <p>○教材『掲示板への書き込み方の問題を見つけよう』(※「Benesse 情報モラル Navi」を参考に作成)</p> <div style="border: 1px dashed blue; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【書き込み方のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・間違いを大きめに書かない。</li> <li>・悪口を書かない。悪口を書かれても相手にしない。</li> <li>・知らない人が見る掲示板には個人情報を書かない。</li> <li>・テーマと違う話をしない。</li> </ul> </div>	<p>○ 実際の掲示板で起こりうる内容を疑似体験させるため, デジタル教材を使って, 4パターンの事例について考えさせる。</p> <p>○ 問題点にラインを引かせ, なぜ問題なのかを考えさせる。</p> <p>★ 電子黒板にデジタル教材を提示し, ペン機能を使って, マナーとしていけない部分にしるしを付けさせる。(書き込み機能, 保存機能)</p>	<p>35</p>
<p>(4) チャットや掲示板を利用する時には, どのようなことが大切なのかをグループで話し合う。</p> 	<p>○ 情報モラルに関しては, 知識だけではなく, 相手を思いやる心情面を押さえていく。</p> <p>○ 本時めあてとつなげて考えさせる。</p>	<p>40</p>
<p>3 本時学習をまとめ, 振り返りをする。</p>  <p>○ 自己評価をして, 「今日の学習で」を書く。</p>	<p>★ 振り返り時に児童が書き込んだデジタル教材を提示し, 本時学習を確認させる。</p> <p>○ 学習プリントに本時学習でわかったことや今後気をつけたいことを書かせる。</p>	<p>45</p>

(5) 板書計画

